

永守紋子・杉本奈奈重 二人展
「空を手繰り、私は灯す」開催のご案内
Ayako Nagamori × Nanae Sugimoto Two-person exhibition
“We all still have a long way to go”

このたびギャラリーヘプタゴンにて漆・永守紋子と木版画・杉本奈奈重の二人による展覧会「空を手繰り、私は灯す」を開催いたします。

互いに接点のなかった両者ですが、二人の繊細な作品が互いに響き合う空間を見いだすべく開催の運びとなりました。この機会にぜひご覧ください。

Statement

静寂な夜に耳を澄ますように
何も無いと思えるところからイメージの源をたぐりよせる。
この二人の作品に共通するのはささやき声のような気配である。

永守の漆平面作品は一見して何も描いていないように見える。しかし紫外線に触れ時間を経ることによって、漆の上層が透けて下層の図像が可視状態に近づいてくる。それまでには数年かかるような「漆の時間」は、人間の時間軸とは全く異なる位相にある。

杉本の木版画はコントラストの強い輪郭線はすくなく、背景に溶け込み、意識と身体の世界を曖昧にするようである。画面に目をやると、淡く繊細なグラデーション、顔料の色、版の重なり、和紙の繊維、さらにその奥へと引き込まれる。

見えるものの奥に潜む、見えないもの。
それは、永守の漆の層の奥に潜む絵の気配であり、杉本の木版画の余白に漂う存在の気配でもある。
共に樹木から生まれるそれらは自然現象の痕跡であり、命の記憶のかけら。

作家はそれらの記憶を手繰り、見えないものにかたちを与える灯りをとます。

目指す地点までは未だ道半ば。

【展覧会詳細】

会期 | 2025年11月7日(金)～11月23日(日)

※ アーティストトーク: 11月8日(土) 14:00～(永守紋子・杉本奈奈重)

時間 | 12:00～18:00

休廊日 | 11/13・20(木)

会場 | Gallery Heptagon (ギャラリー・ヘプタゴン)

〒602-8175 京都市上京区下立売智恵光院西入中村町 523

TEL: 080-7583-3388 info@heptagonworks.com www.heptagonworks.com





《透明な空気》
呂色 色溜め 60×60 (cm) 2020



《LISTEN TO THE SILENCE.》
呂色 蒔絵 螺鈿
6×6×11 (cm) 2024



《BLUE DAISY》
木地溜め呂色 螺鈿 蒔絵
8×8×7.5 (cm) 2024



《光の駒》
呂色 蒔絵 螺鈿
11×11×6 (cm) 2025



《風をえがく》
呂色 色溜め 45×45 (cm) 2022



《惑星》
呂色 蒔絵 螺鈿
9.×9.5×6.5 (cm) 2023

Profile

永守紋子 | Ayako Nagamori

- 1983年 神奈川県鎌倉市生まれ、のち兵庫県へ転居
2005年 京都市立芸術大学美術学部工芸科漆工専攻卒業
2008年 金沢卯辰山工芸工房漆芸工房修了

漆は茶褐色の透明な樹液ですが、紫外線にあたると透明度が増す性質があります。それは漆の弱点だと言われていたのですが、私の作品はその性質を生かした作品です。

水が溜まったように見える底の部分には、何層にもなった漆の層の各層に葉っぱが描かれており、上の層の葉っぱと下の層の葉っぱには遠近感があります。しかし、時間が経つにつれ見えてくる葉っぱが増え、まるで水が透き通るように鮮明になります。年月を経て今まで見えなかった葉が現れる変化を楽しむことができます。

One of the commonly known flaws of lacquer sap, is its nature of turning transparent, from its original amber, when exposed to UV light. My work pieces utilizes this nature and turns the flaw of lacquer into expression technique.

The flat bottom surface of the piece is coated with numerous layers of lacquer, with leaves drawn into each and every layer. As the piece age and the amber layers become transparent, like the impurities of pond water slowly precipitating, the bottom surface turns into clear water-like texture, giving the visual effect of as though the drifted leaves of the past, gradually re-appearing from deep underwater.

主な個展

- 2025年 「ひかり きらり 光る」(日本橋高島屋美術工芸サロン) 東京'23 (横浜高島屋美術画廊) 神奈川
巡回展
「あるかなしかの風」(GALERIE CENTENNIAL) 大阪・2011年より毎年
2024年 「みえる?」(京都高島屋美術工芸サロン) 京都
「あたら、花咲く」(art space morgenrot) 東京'22'20
2018年 The Allure of Urushi By Ayako Nagamori (The GALLERY by SOIL) 香港

主なグループ展

- 2025年 「ハンドストーリー 現代の手技 増田敏也 河崎海斗 永守紋子 三人展」(福山天満屋) 広島
2024年 「工芸のその先へ -Kogei Ahead」(京都高島屋美術画廊)
KOGEI Art Fair Kanazawa (Hyatt Centric Kanazawa) 石川 '25
2020年 「漆ウルトラ」展(高島屋美術画廊 日本橋店 京都店 大阪店)
2014年 The stories from fingertips, Talking with eating tools. (Vogoze) ソウル、韓国



《私の中に眠る自然 / The Nature Sleeping in My Body》
木版画、和紙、水性絵具 Woodblock print, water color on washi paper
97×67 (cm)
2018



《室内風景#2 / Indoor Scenery #2》
木版画、和紙、水性絵具
Woodblock print, water color on washi paper
24×33 (cm)
2022



《A Study of Light》
木版画、和紙、水性絵具 Woodblock print, water color on washi paper
97×67 (cm)
2016



《Untitled 2022.02》
木版画、和紙、水性絵具
Woodblock print, water color on washi paper
48×33 (cm)
2022

Profile

杉本奈奈重 | SUGIMOTO Nanae

1991年 京都市生まれ

2023年 京都精華大学博士後期課程修了 博士(芸術)

1991 Born in 1991

2023 D.Arts, Kyoto Seika University

自身の身体感覚やその変化を起点に、おぼろげだがたしかに存在し、関係し合うもののありさまに関心を寄せる。木版画のぼかし摺り技法で、事物の間にある微妙な階調を目に見えるようにする。

Starting from her own bodily sensations and the changes therein, Nanae is interested in reflecting the indistinct symbiosis of things that dimly exist. Using the traditional gradation technique of Japanese woodblock printing, her aim is to visualize the tone which subtly lies in between things.

主な個展

2025 「隣室のお化け」+1art/大阪

2024 ギャラリー恵風/京都 同'22, '17

O gallery/東京 同'21, '17, '16, '15

主なグループ展

2024 「夢ではない」+1art/大阪

2024 「京都府新鋭選抜展」京都文化博物館

2018 「夏冬」Gallery OUT of PLACE/東京

主な受賞歴

2017 「京都府新鋭選抜展」アンステイチュフランセ関西賞

2016 「全国大学版画展」収蔵賞, 同'15, '14

2014 「京展」館長奨励賞

2013 「アワガミ国際ミニプリント展」準大賞

主なパブリックコレクション

佐久市立近代美術館 油井一二記念館(長野)

町田市立国際版画美術館(東京)

コメント

世界が秘めている無数の可能性を木版画のぼかし摺りに託せないだろうか。

葉が落ちて枝だけになった木を見ると人の体の内部を連想する。木と身体には共通するカタチ

があると気づくとき、ふだん意識しないことにも関心が向く。

身近な存在のことはわかっているつもりになるが、視点を変えれば予想外のすがたになる。見えなくなっても、カタチ、

すがた、色を変えてあなたと繋がっているはず。